

素晴らしい資源を生かすためにもっとできることがある



JR西日本 備中高梁駅長 守分 則雄さん

ここ数年、特に今年の2月以降、乗降客が増えていると感じています。外国人のお客様も増えています。交通機関としても、人が集まる駅としても、より良い対応をしていきたいと考えています。

高梁市には良い観光資源や素材がたくさんあるので、鉄道も含め、それらをうまくつなげたい。具体的には、電車で観光に来られる方の旅のスケジュールが滞らないように、より快適に高梁を楽しんでいただけるように交通網を整備する必要があります。

私の母の生まれが高梁市内で、私も子どもの頃からよく知っている。思いが強いので、より多くの人に高梁の良さを知ってほしいです。

鉄道

大人気のボンバスで 高梁を宣伝します



備北バス株式会社 飯芽 久美子さん (協議会員)

国内旅行における「高梁」の名度の高まりを実感しています。これからは「備中松山城があるところ」だけでなく、他にもたくさん魅力があるということを知ってもらわなければなりません。

また、高梁市のボンネットバスは全国的にも珍しく、とても人気があり、イベント会場に停車しているだけで高梁の宣伝になります。

現在もさまざまな活用がされていますが、市外の方々への認知・宣伝に向けて、より効果的な利用方法を考えていきたいと思っています。

高梁大好き、バス大好き私のにびったりの任務です。

バス

高梁の魅力

発信する窓口として



高梁市図書館 三浦 成さん (協議会員)

私は旅行と電車が好きで、学生時代に一人サングライズエクスプレスで高梁に来たことがあるのですが、その時の記憶の中に、観光客として不便に感じたこともあります。

現在、高梁で暮らし、高梁の魅力を発信する仕事をするようになって改めて見てみると、改善されていることもあれば、今でも残っている問題点もあるようです。

これまでに旅をした小さな都市や町のなかには、町ぐるみで観光客を楽しませてくれているように感じるところもありました。

市の施設として、また、民間企業として、市と共に観光戦略に取り組んでいきたいです。

観光案内所

観光客の移り変わりを 肌で感じている



日本料理店「花のれん」 江草 純子さん (協議会員)

先日、10名の外国からのお客様が予約なしで来店されました。以前なら驚いたかもしれませんが、今は驚きません。その方たちはおそらく、英語で書かれた当店のホームページを見て来られたのだと思います。当店でメニューに英語を付記していますし、簡単な言葉は話せるようにしています。

時代が変わったら私たちも変わらなくては、さまざまなお客様に私たちの変わらないサービスを受けていただきたいと思います。

行政と取り組む協議会の場でも、同じように努力をしていきたいと思えますし、より多くの方にアクションプランの取り組みについて知っていただきたいです。

飲食店

アクションプランから 生まれた古民家再生



株式会社吹屋 社長 戸田 誠さん

現在吹屋では一軒の古民家再生工事が行われており、来年度中に宿泊施設として開業することを目指しています。

この古民家再生を軸に「観光地・吹屋」をより発展させていくために、地域の皆さんとともに株式会社(株)吹屋をつくり、私は社長に就任しました。

株式会社にした理由は、この取り組みをビジネスとして成功させなければならぬということ、出資その他どういった形でもよいのですが、地域の内外で、仲間や協力者を増やしていきたいと考えているからです。

吹屋は魅力的な観光地ですが、宿泊や食事をする所が不足していることや、定番と言えるようなお土産品が不足しているなど課題は

いくつもあり、解決していくためには仲間が必要なのです。生きていくうちは 吹屋のためにがんばる

この古民家再生は、アクションプランの吹屋地区座談会から生まれたプロジェクトです。

私は吹屋で生まれて吹屋で育ち、今も吹屋で暮らしている中で、ここを良いまちにしたいという思いはいつも持っています。そんな中で、市役所の職員さんに参加していただいて、真剣にまちづくりについて話ができる協議会はとてもありがたいし、やる気を起こさせてもらっています。

私も、生きていくうちは、吹屋のために頑張ろうと思っていますよ。



成羽町吹屋の古民家再生

さまざまな国のさまざまな人が 高梁にやってくる



高梁国際ホテル 則本 健司さん

インバウンド(P9参照)という言葉が流行っていますが、当ホテルにおいても、外国人のお客様が増えています。中国と台湾から来られる方が多いですがそれだけでなく、さまざまな国からいらっしやっています。それに伴い、禁煙・分煙といった館内環境や、信仰や体質アレルギーを理由とする食事の内容など、あらゆる対応を求められるようになってきました。

先日、高梁の観光地を巡るツアーに外国人の皆さんに混じって参加した際には、人種や文化、嗜好だけでなく、年齢やジェンダーにも対応しなければならぬことを学びました。

ホテルの従業員のことを具体的に言うと、フロント係もですが、レストランのスタッフはより幅広い対応をするための言葉を知って

宿泊施設

いる必要があります。また、外国から来たお客様と話をするとき、その日の為替レートを把握していれば、良いコミュニケーションをとりながら話をする事ができたりします。

行政と民間がそれぞれ できることを実現していけば

同様のことが、すべての業種で求められていると思います。道路看板や案内板の内容の見直しや、窓口での「Yes・Noシート」の用意など、観光地として考えられる良いアイデアはいろいろありますが、それらはすべて、実現されなければ意味がありません。

そういう意味で、市と観光業者が共に取り組むアクションプランの意義は大きいと思います。

私は以前、ヨーロッパのホテルで働いていたことがあり、そこでさまざまな方々に対するサービスをした経験を、高梁国際ホテルでも、また、協議会の取り組みにおいても、生かしていきたいと考えています。